

2023年1月24日

各 位

コスモエネルギーホールディングス株式会社

株式会社シティインデックスイレブンスが2023年1月20日付で公表した  
プレスリリースについての当社見解に関するお知らせ

当社は、当社株主である株式会社シティインデックスイレブンス（以下「シティ社」といいます。）が、自らのホームページにおいて、2023年1月20日付で「コスモエネルギーホールディングス株式会社との対話の経緯及び同社に対する弊社の考え方について」と題するプレスリリース（以下「シティ社プレスリリース」といいます。）を開示していることを確認いたしました。シティ社プレスリリースは、これまで当社とシティ社及び村上世彰氏があたかも建設的な対話を継続してきたかのように、シティ社らに都合の良い一部の発言のみを恣意的に捨象した内容となっており、当社としては、シティ社らが自らの威迫的な言動など無かったかのごとく、事実に基づかない内容のプレスリリースを公表したことについて、シティ社及び村上世彰氏への疑念を深めざるを得ません。

すでに、シティ社らによる大規模買付行為等への対応方針に関する当社の見解は、2023年1月11日に公表した「株式会社シティインデックスイレブンスらによる当社の株券等を対象とする大規模買付行為等が行われていることに基づく当社の会社支配に関する基本方針及び当社の株券等の大規模買付行為等に関する対応方針の導入に関するお知らせ」及び2023年1月17日に公表した「株式会社シティインデックスイレブンスから2023年1月12日付で送付された当社取締役会に対する書簡及び株式会社シティインデックスイレブンスが同日付で公表したプレスリリースについての当社見解に関するお知らせ」（以下「1月17日付当社プレスリリース」といいます。）において、株主の皆様へご説明しているとおりはございますが、シティ社プレスリリースには事実と異なる内容が含まれていることから、当社として、株主の皆様の誤信を正し、適切な情報提供を行う観点から、シティ社プレスリリースに対する見解をお知らせいたします。

まず、シティ社は、当社に対して社外取締役候補者を推薦した経緯について、「一方的かつ強行に取締役の派遣を迫ったものではない」と縷々釈明をしております。しかし、シティ社プレスリリースのなかで「村上氏の発言を引用して」と認めるように、当該社外取締役の派遣についての提案は、純粋に社外取締役の候補者を推薦するということではまったくなく、突如として大量保有報告書ベースで20%以上の当社株式を取得しないこととパッケージであるとして示されたものであり、不適切かつ不当な提案であったと言わざる

を得ません。また、同社の村上世彰氏は、当社との一連の面談において、当初は「びっくりするような立派な人を推薦しようと思ってます」「コスモが嫌がる人は推薦しません」などと会社提案の候補者を株主として友好的に推薦したい旨を主張していたものの、当社が定時株主総会に向けて時期的に間に合わないのではないかと訊ねたところ、「そういう言い方は止めてください。間に合います」、「指名委員会の委員長が間に合わないって言うんだったら、委員長と合わせてください。そしたらプロキシファイトで僕がその人だけ外します」、「もっと言うと指名委員会で『村上さんからこんな提案があった』と聞いてみてください。そこで嫌だって言うなら、その指名委員は来年全員落とします」と、強い口調で当社に自らの望む社外取締役を候補者に擁立するよう判断を迫ってきました。この点、シティ社自らも「対立的になってしまいました」とプレスリリースの中で述べているとおりでありますが、当社としては、シティ社が表面的にのみ「コスモが嫌がる人は推薦しない」或いは「（見た目は会社提案なので株主提案であることを）世の中の人たちは知らない」などと友好性を装いながら、実際のところは、**社外取締役候補者が自らの思い通りにならないと知るや否や、指名委員全員の解任を仄めかす**など、威迫めいた行動をとってきたことは明らかなです（なお、現在の当社の取締役会構成は、9名中4名を独立社外取締役が占めているなど、コーポレートガバナンス体制の実効性は担保されており、自らの推薦する人物を社外取締役の候補者としなない場合には、そのことのみをもって、プロキシファイトを通じて指名委員全員を解任しようとする村上世彰氏の提言にはまったく合理性がないものと考えております。）。

加えて、シティ社や村上世彰氏が社外取締役候補者の実名を挙げる中においても、理解に苦しむ不可解な言動が見受けられました。2022年12月13日の面談において、村上世彰氏は、当社の社外取締役の候補者として経済産業省のOBの実名を複数名挙げました。当社としても、かねてより今後の風力発電事業の強化などを見据えた場合に、エネルギー政策に明るい経済産業省出身者を社外取締役の候補者とするには検討に値すると考えていたところ、村上世彰氏が挙げた候補者のおひとり（X氏）については、当社としても社外取締役の候補者として検討し得る方であったため、2022年12月27日のシティ社との面談において、当社としてアプローチすることも考えている旨を伝えました。ところが、それを聞いた村上世彰氏は突如態度を変え、「うまくいかないんじゃないかと思いませんか」、「（当社に）いったとしても相性ってあるじゃないですか」などと発言し、さらに、2023年1月6日のシティ社との面談においても、村上世彰氏は、「それは無理です」、「X氏は御社につきません」、「僕が頼んではじめて来ます」、「じゃあどうぞ自由に」などと発言をし、態度を豹変させました。**村上世彰氏が、自らX氏を「会社提案候補者」として推薦したいと言及したにも関わらず、当社がX氏にアプローチすると知ると、まるで自身にとって都合が悪い事情でもあるかのように当社によるX氏への接触を阻むような言動に出た**ことは、当社としてまったく理解に苦しむものです。

さらに、シティ社は、再生可能エネルギーへの取り組みについても、これまで当社との間で「建設的な対話」を行ってきたかのように一部の断面を恣意的に切り取って描写しております。しかし、実際には2023年1月6日の面談において、当社が中長期の成長戦略の説明を試みるたびに、村上世彰氏はほんの数秒すら傾聴することなく、再三にわたって当社説明を遮り続け、ひたすら当社に対して、自己株買いの即座の実施のみを威迫めいた口調で求めてきました。また、当社が取り組みを強化している洋上風力発電事業に関しても、当社が公募で選定されないことを入札の関係者から聞きつけたかのような出所不明な胡乱な情報を交渉材料としてほめかしながら、当事業への取り組みが失敗することが所与であるかのような発言を繰り返しました。これらの言動は、結局のところ、シティ社が当社の風力発電事業について、中長期の企業価値向上やクリーンエネルギー政策の観点から関心を有しているわけではなく、単に自己株買いの原資となる余剰資金を最大化する観点から風力発電事業の失敗可能性（ひいては投資ができない場合の余剰資金の存在）を強調し続け、当社に対してひたすら自社株買いを求めるために発言していたに過ぎないのではないかと考えられます。当社としましては、シティ社が、このような事実と異なる情報を株主の皆様が発信し続けていることに鑑み、今後必要に応じて、機関投資家株主との個別面談等に際して、村上世彰氏との面談時の音声データを聞いていただくことも検討しております。

このほか、シティ社は、自己株式の取得や自己資本の在り方に関しても、シティ社プレスリリースの中で自らの見解を縷々記載しておりますが、当社としましては、1月17日付当社プレスリリースでもお伝え申し上げたとおり、自己資本の在り方に関しては、2023年3月に公表予定の第7次中期経営計画において説明する予定であることから、これらシティ社の主張に逐一反証を行うつもりはございません。なお、これまでの面談のなかで、シティ社及び村上世彰氏は、「中計の話は中に入って議論させていただけないか」「秘密保持契約も一つの方法だ」など、敢えて当社のインサイダーとなって中期経営計画の策定そのものに関与しようとし、再々にわたって守秘義務契約の締結を提案しておりますが、当社としては、特定の株主との間で、何ら特別な事情もない中で秘密保持契約書を締結することには理由がなく、一般株主との平等性の観点でも受容しかねるものと考えております。

株主の皆様におかれましては、シティ社の発信する情報が事実に基づかない内容が含まれている点について十分にご注意を頂き、当社から発信する開示資料等を通じて適切な情報把握を行っていただきますようお願い申し上げます。

以上